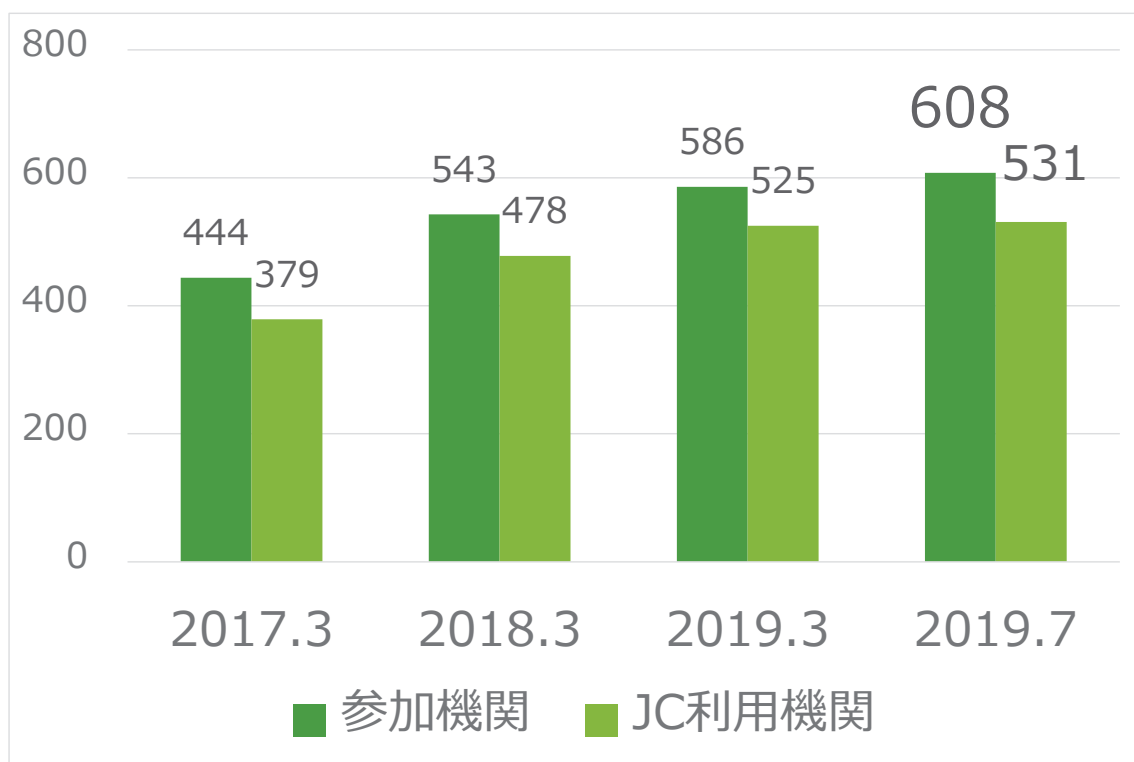


オープンアクセスリポジトリ推進協会活動報告

第1回学術情報流通推進委員会
2019年8月6日（火）

会員機関数の推移



会員機関数

種別	機関数	加入率 (%)	未加入機関数	総数*1	JC利用機関
国立大学	75	87.2	11	86	44
公立大学	64	68.8	29	93	56
私立大学	382	63.3	221	603	349
大学共同利用機関	12	64.7*2)	6	17	11
短期大学	40	12.1	291	331	38
高等専門学校	8	14.0	49	57	8
その他（研究機関等）	27	— *3)	—	—	25
合計	608	48.9	607	1,187	531

*1) 典拠：平成30年度学校基本調査結果の概要

2019.7.10現在

*2) 大学共同利用機関数の加入率に、機構本部は含まない（1機構本部参加分を除く）

*3) その他（研究機関等）は、加入率に含めない

- ・国公立大学全体の加入率：66.6%
- ・機関リポジトリを公開する機関の74%がJC利用機関
- ・会員機関の87%がJAIRO Cloudを利用

2019年度運営体制

会長	立教大学
監事	お茶の水女子大学 首都大学東京（2018.7～）
運営委員	15名（会員機関選出）
作業部会員	55名（会員機関選出）
事務局	2名（1名・非常勤1名（NIIから））

JPCOAR

オープンアクセスリポジトリ戦略

2019～2021年度

- ビジョン
- 5つの戦略
- 戦略にもとづく活動計画・実施担当

2019年度活動計画

1. オープンサイエンスの推進に寄与するため、研究データの公開、流通に関する先導的な取り組みを行う。

担当 研究データ作業部会

- (1) 研究データを公開する基盤の整備に向けて、機関リポジトリの役割、機能要件について取りまとめる。
- (2) 研究データの公開、流通促進を図るため、データベーススキャッププロジェクトを継続する。
- (3) 研究データの評価指標に関する実務指針“Code of Practice for Research Data Usage Metrics Release 1”を翻訳し、公開する。
- (4) RDMトレーニングツールの理解の助けになる用語集等を作成し、公開する。また、RDMトレーニングツールの機関運用の試行に取り組む。

2. オープンアクセスを推進する学術情報流通の基盤を整備し、コンテンツの流通、活用を促進する。

担当 コンテンツ流通促進作業部会

- (1) JAIRO Cloud開発に資する情報提供を行うとともに、参加機関の利用のサポートをする。
- (2) 現行のSCPJからJPCOARサイトへの移行を行い、オープンアクセスのインフラを整備する。
- (3) コンテンツ収集のために効果的な方法を検討するため、統計分析等によって現状を調査する。
- (4) JPCOARスキーマの普及・維持管理を継続して実施する。

3. オープンアクセスリポジトリを支えるコミュニティとしての機能を強化する。

担当 コミュニティ強化・支援作業部会

- (1) 協会HP、Facebook、情報誌CoCOAR での情報提供及び情報発信を行う。
- (2) JAIRO Cloud コミュニティサイトによるサポートを継続するとともに、現有のウェブサイトやコミュニティツールのあり方を整理し、新JAIRO Cloudへの移行に伴う次年度以降のサイト運営計画を作成する。
- (3) JPCOAR の活動成果普及、地域単位でのコミュニティ活性化をはかるため、図書館総合展のフォーラム開催及び地域でのイベントプログラムを実施する。
- (4) 会員機関のグッドプラクティスを情報誌やイベントで取り上げて情報共有を図るとともに、取組みへの支援策を検討する。

4. オープンアクセス、オープンサイエンスの推進に対応できる人材育成を行う。

担当 人材育成作業部会

- (1) オープンアクセス、オープンサイエンスを推進する人材に求められるスキル抽出を行う。
- (2) 対象者、目的に合わせ、研修体系の再構成を行う。
※Dspace等からJAIRO Cloudへの移行相談会の開催。
機関リポジトリ新任担当者研修の実施。

5. 協会の活動基盤を強化し、JPCOARのブランド力を高める。

担当 運営委員会

- (1) 作業部会間、運営委員会と各作業部会との連絡を密にし、協会の情報収集力、企画力の強化をはかる。
- (2) 事務局員の確保及び継続的な事務局体制の検討を行う。
- (3) 作業部会員の横断的な活動を組織化し、海外の動向調査等、若手、中堅職員のレベルアップをはかり、人的活動基盤を強化する。
- (4) 協会の活動及びその成果を広く発信し、国内外での認知度を向上させる。
- (5) COAR Annual Meeting及びCOAR Asia OA Meeting等に会員を派遣し、JPCOARのプレゼンスを高める。
- (6) 国大図協OA委員会、これから委員会、JUSTICE及びSPARC Japanとの連携体制を強化し、文部科学省、内閣府等の政策の動き及びCOAR等の動きへの適切な対応を行う。

2019年度新任担当者研修

	開催日	申込期間	開催場所	定員
第1回	7月26日(金)	(募集終了)	国立情報学研究所	50名
第2回	9月30日(月)	8月1日(木)～9月2日(月)	武庫川女子大学附属図書館	50名

【目的】

オープンアクセスの推進と機関リポジトリの構築・運用に必要な基礎的な知識を修得する。

【到達目標】

オープンアクセスについて理解し、所属機関で機関リポジトリの構築・運用を行うことができるようになる。

【講義及びグループ討議】

機関リポジトリ概論、システム管理とメタデータ、機関リポジトリと著作権、研究データ管理概論、事例報告、グループ討議

J P C O A R

オープンアクセスリポジトリ推進協会

JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略

2019～2021 年度

2019 年 3 月 13 日

2018 年度総会決定

<現状認識－機関リポジトリを取り巻く環境の変化>

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）は、2016 年の創設以来、世界にも類をみないオープンアクセスリポジトリコミュニティとして成長を続けている。また、JPCOAR は、大学図書館界全体として活動するリポジトリの新しいコミュニティとして、機関リポジトリによる学術文献を中心としたオープンアクセスを進めることで、学術情報流通の改善を行ってきた。今後もそれが基礎であることに変わりはなく、学術雑誌論文のセルフアーカイブ、紀要論文、学位論文の公開という機関リポジトリの基本的な機能のみならず、リポジトリを通じた知の発信システムとして多様な学術成果の発信を進めていく。一方で、リポジトリを取り巻く状況は近年大きく変化している。とりわけ、世界的潮流となっているオープンサイエンスに関して、「第 5 期科学技術基本計画」では、「オープンサイエンスとは、オープンアクセスと研究データのオープン化（オープンデータ）を含む概念」とした上で、イノベーションを生み出す知の基盤としてのオープンサイエンス推進が謳われている。JPCOAR もその設立趣意書にあるように、学術成果のオープン化に寄与するため、オープンアクセスに関するこれまでの取り組みを土台として、オープンサイエンスの推進に、国内外の団体との連携を密にしながら取り組んでいくことが必要となる。

<ビジョン>

機関リポジトリをめぐる国内外の状況を踏まえ、リポジトリコミュニティとしての JPCOAR は、国内外の関係する団体、コミュニティと連携し、リポジトリによる知の発信システムを構築し、オープンアクセスのより一層の推進を目指す。会員機関のニーズを踏まえ、多様なコンテンツへの対応、コンテンツの価値を高めるリポジトリの機能向上に努めるとともに、研究データにも対応するリポジトリ環境の整備を行っていくことで、オープンサイエンスの推進にも寄与する。また、このめまぐるしく変化する環境に対応し、JPCOAR のコミュニティとしての機能を強化し、会員機関全体の底上げを図るとともに、新しい時代を担う中核的な人材の育成に努めていく。

<オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021>

JPCOAR はビジョン実現のため、2019 年度から 2021 年度の 3 年間ににおいては以下のオープンアクセスリポジトリ戦略をもとに活動を行う。

1. オープンサイエンスの推進に寄与するため、研究データの公開、流通に関する先導的な取組みを行う。
2. オープンアクセスを推進する学術情報流通の基盤を整備し、コンテンツの流通、活用を促進する。
3. オープンアクセスリポジトリを支えるコミュニティとしての機能を強化する。
4. オープンアクセス、オープンサイエンスの推進に対応できる人材育成を行う。
5. 協会の活動基盤を強化し、JPCOAR のブランド力を高める。

<戦略にもとづく活動>

1. オープンサイエンスの推進に寄与するため、研究データの公開、流通に関する先導的な取組みを行う。
活 動 計 画
1.1 研究データ対応を見据えた国内機関リポジトリの役割、機能要件を明らかにし、研究データを公開する基盤に関する整備を行う。
1.2 国内外の関連機関と連携し、研究データの情報流通促進及び評価に関する活動を行う。
1.3 研究データの管理・共有・公開を促進するため、研究支援に携わる職員の意識、スキルの向上を図り、会員機関における活動を支援する。
実 施 担 当
研究データ作業部会

2. オープンアクセスを推進する学術情報流通の基盤を整備し、コンテンツの流通、活用を促進する。
活 動 計 画
2.1 コンテンツ収集の方策を検討し、リポジトリを活用した学術情報のオープン化に寄与する活動を促進する。
2.2 著作権等のポリシーに関する動向を確認し、学協会等への適切な働き掛けを行う。
2.3 多様なコンテンツの流通を支えるメタデータスキーマである JPCOAR スキーマの普及に努め、国際的な相互運用性を確保するために適切な維持管理を行う。
2.4 外部データとの連携を支える永続的識別子の活用を促進する。
2.5 コンテンツの再利用を可能とするため、著作権者等によるライセンスの付与を促進する。
2.6 国立情報学研究所と連携・協力し、JAIRO Cloud の機能改善と安定的、持続的な運営を行う。
実 施 担 当
コンテンツ流通促進作業部会

3. オープンアクセスリポジトリを支えるコミュニティとしての機能を強化する。
活 動 計 画
<p>3.1 コミュニティ活動を支援するため、会員相互の情報交換の場を提供する。</p> <p>3.2 国内外の最先端の取組、技術や知見を収集し、会員機関へ提供する。</p> <p>3.3 JAIRO Cloud コミュニティサイト等を通じた、JAIRO Cloud 利用機関へのサポートを行う。また、JAIRO Cloud 移行機関へのサポートも引き続き実施する。</p> <p>3.4 会員機関におけるコンテンツの充実のための取り組みやポリシーの策定など、各機関が主体的に実施する活動について、コミュニティとして情報共有を図る。</p> <p>3.5 会員機関が実施する優れた取り組みへの支援を行い、その成果を協会、会員機関へ還元する。</p>
実 施 担 当
コミュニティ強化・支援作業部会

4. オープンアクセス、オープンサイエンスの推進に対応できる人材育成を行う。
活 動 計 画
<p>4.1 オープンアクセス、オープンサイエンスの推進に対応できる人材に必要な標準的な技能や知識を明確にする。</p> <p>4.2 オンラインによる学習を含め、リポジトリ担当者、研究支援に携わる職員など様々な対象・レベルの研修の機会の充実を図る。</p> <p>4.3 作業部会、タスクフォース、海外派遣などの活動を通じて、オープンアクセス、オープンサイエンスを牽引する中核的人材の育成を支援する。</p>
実 施 担 当
人材育成作業部会

5. 協会の活動基盤を強化し、JPCOAR のブランド力を高める。
活 動 計 画
<p>5.1 オープンアクセスの推進を図るため、会員機関の拡大を図り、人的及び財政的な活動基盤をより強固なものにしていく。</p> <p>5.2 協会の活動及びその成果を広く発信し、国内外での協会の認知度向上に努め、海外においては特にアジアでの存在感を高める。</p> <p>5.3 リポジトリを活用したオープンアクセス及びオープンサイエンスを推進するため、関連する国内の機関や組織等と適切に連携を行っていく。</p> <p>5.4 国際的な取組みに積極的に関与するため、オープンアクセス、オープンサイエンスを推進している国際的なコミュニティやイニシアティブとの連携を進める。</p>
実 施 担 当
運営委員会